

常警日新聞

定價 一冊五錢 一月一元五角 三月四元 半年七元 一年十二元
 廣告料 五號以上 一行五錢 五號以下 一行三錢
 日曜祭日の日 週日休刊
 發行所 常警日新聞社 印刷所 常警日新聞社
 電話 六二〇〇
 印刷所 常警日新聞社 印刷所 常警日新聞社



創作 かんざし

木津茂太郎

彼は今温泉場に来てゐるのである。彼の家はこの土地から一里餘りも東に行つた所にある。彼の家の家業は乾物屋で相當手廣く近郷近在に荷を卸してゐた。彼はその町の中學校を卒業してゐたが、何をしなくともよいので、毎日ぶらぶらと暮してゐる内に、學校時代の疲勞が出たものか神經衰弱になつてしまつた。彼は山の中の温泉に来てのらくらとしてゐる。山はもう春たつたから、其處此處の野道には、たんぼぼが咲いてゐたり、雲雀や早い鶯が静寂を破つて聞えたりした、彼は今朝七時頃起きて宿の番頭の秋さんと小さい山を越して、清い水の落ちてゐる瀧に行つて來た。その道で一人の娘と行き會つた。こんな山の中には見掛けない瀟洒な服装をしてゐた。その珠のやうに白い顔が彼の印象に残つてゐる。自分よりは二つか三つ年少だと思つた。秋さんに聞くとその娘は、直ぐこの裏の百姓家の二番目の娘で、東京の親戚の家へ行つ

てゐたのだが、一寸身體がいけないので歸つて來てゐるとのことだ。
 彼は今朝の事を思ひながら山路を歩いてゐる。

何鳥かピイツと鋭く啼いて、羽を日に輝やかせて飛んで行つた。彼は一寸その方を視たが、またうつむいてしまつた。日はもう晝下りである。

「其處へ行くのは縁彌さんぢやないかい」
 と突然路傍の草むらの中から聞えたので彼は立止つた。

「誰だね」
 草むらに分けて路へ出て來たのは近頃仲好しになつた津川喜太郎といふ青年であつた。

水引は普通は赤白
 通は赤白
 吉例には
 赤白、赤金、金銀、凶事には黒白、青白、白

あつた。彼も退屈なので温泉に浸りに來てゐる一人である。
 「何をしてゐるのだねそんな草の中で」
 「これを見給へ。殺生なことを初めたのさ、ドンとやると、矢の様に落ちて來るのは愉快なものだよ」

獵だ彼の背中の袋には、紫の羽根をした山鳥が入れてあつた。空氣銃の筒先が

キラリ／＼光つた、二人は肩を並べて歩き出した。
 「今日はもう止めにしよう」
 「何故」

「明日の献立」
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】とろ／＼山芋 たまご青のり
 【書】酔あへ／＼糸こんにやく 椎茸
 【晩】油揚げ／＼白ごま 酢あへ

「いゝんだよ。一羽でも素人の手に撃たれりや大漁だからね。それより君、一つ遊びに行かないか奴のところにえ」

「あ、君は知らないな、ほら俺達の宿の裏に立派な茅屋根が見えるだらう。あそこの時つて云ふ男は面白い男だ」

彼はぎよつとした。津川とあの娘の家の時とか云ふ男とはきつと馴染なので度々津川はあの家へ遊びに行くのだ。何んとなくその事が嬉しいやうな気がして來て、微笑を湛へて、
 「ゆかう。君が案内して呉れ」

間もなく生垣の入口から入つて娘の家へ來たするとその縁先でぱつたり彼は娘

と出會してしまつた。娘は一寸どきまぎして視線を外らした。晝間瀧の傍で行會つた青年が、喜太郎と同道でやつて來たのが不思議だつた。

「つたちゃん、時さん居ないかね」
 「あいにくだわ山へ行つてね」

「さうかい。新らしい人をつれて來なんだ。時さんの得意な歌を聞かうと思つてね」

「あたしでは駄目なの。あたし上手いわ……」
 さう云つてつたはほ／＼と、笑つて障子を開けて向ふへ行つてしまつた。

彼はつたが好きになつてゐた。しかし、俺は感じ易くて駄目だと思つて、二三步歩いてから津川を誘つた津川は先に立つて元氣に山路を鼻唄を歌ひながら歩いて行つた。

平高野 堂島澤
 前易斷定
 一 象
 地 所象

【一白】本命中宮の日して萬事涉々しからされは現狀維持か吉【二黒】緑談金談取引の苦勞あるも午後は吉兆を得べし【三碧】我が望事の緒を得て金談普請の計果を得る吉日【四綠】病氣怪俄紛失盜難の患ひある日なれば萬事に注意【五黃】火難水難を注意して謙遜美德を旨とすべし【六白】總てか好景氣に行くと雖も火災水難眼病に注意【七赤】古きを捨て新企の念起は進んで大利を得るも怪俄と病氣に注意【八白】金

八月一日巳亥、一白先負取

談綠談の喜悅あるか或は長男【九紫】金苦の生する日目上と意見衝突を引起さぬ様なさい

美味で！
 評判の……
 イワキ
 サロン
 電 352

三井タシク
 目丁二町平 番五八六話電

看護婦急派
 の求めに應じます
 平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

小兒科。内科
 特ニ乳幼児ノ健康相談ニ應ズ。
 平町 ねすみ坂
 渡邊醫院
 電話一六一番

暗行燈から
 マツダランプ
 常警卸元
 日東商會
 平町白銀町(電話四二八番)

特約販賣店
 一丁目 常盤屋時計店
 二丁目 古山電気商會
 三丁目 大谷時計店
 新川町 木村電気商會
 南町 常警ラヂオ商會
 湯本町 東雲堂藥局
 小名濱 白石藥局
 植田町 磐城屋商店
 浪江町 松本支店
 原町 柴田電気商店

旭粉末石鹼
 旭化學工業所
 村山三郎
 平町白銀町五
 行商人募集す

月曜是非

學校の樂園化

財界の行詰りは人の心を殺風景なものにして仕舞つた、生活難は人生の滯ひを全て干からびせしめる、人々は何處にオアシスを求め様とするか？ 安價な享樂機關の多くは徒らに未稍神經をいら立たせものより以外に何もものない、斯ふして人々は荒み果てた曠野を漂泊するルンペンの姿である。

此時平第二小學校では『花祭り』の催しに相次いで『舞踊の夕』を公開した、花束を持つて街頭を行進する少女達、無邪氣に歌ひらかに踊る可憐な姿、何んと微笑しい情景ではないか、人生の悦びが其處に躍つて居る。

地方には子女の清新な娛樂機關が欠除して居る、一面現下の不況苦に在る大人の世界が影響して、子女の純真な性情が痛々しく傷付けられる場合が多い、そして人々は此の哀れな子鳩達を温く抱く事を忘れて居る。第二校の津田校長が此處に着眼して情操陶冶の全きを期し、次から次へと間断なく新しい試みを繰り擧げて、父兄に迄も喘えだ人生の渴を慰せんとする熱心さには衷心より感謝の意を獻げねばならぬ。

さしめる事が出来る、恐ろしい先生が過去の遺物となり、今は慕はしい先生が、兒童渴仰の中心である、學校も堅苦しさを脱して、くつろげる學び舎である事が無味乾燥な讀本に色刷りを入れる時代に添ふた遣り方である。

健康美輝く！

昨日の女子體育競技 第一位は福島高女に

各選手の戦績

既報第三回縣下女子中等學校體育大會陸上競技及び庭球大會は昨日午前八時より磐女の櫻ヶ丘グラウンドに於て舉行、ユニホーム姿の楚楚たる選手百餘名の入場を待つて前田女子師範學校長の開會の辭あり、君が代合唱に次ぎ選手代表として磐女の前田シメユさんが選手宣誓を爲し、愈よ試合に移り磐女を初め各參加校の選手は炎天をもものとせず母校の榮譽を擔つて女性ながらも奮戦力闘、應援團又熱烈し、健康美を發揮した女子體育息詰るばかりの豪華版を展開したが競技は左の戦績に依り福島高女が三十七點を獲得して優勝した

- △五十米 1 磐女 大平 久子 七秒一(大會新記録) 2 福女 金 愛子 3 安女 竹俣 ミエ 4 相女 佐藤 敏子 5 女師 佐藤ユキエ △百米 1 福 落合キョウ 十三秒二(大會新記録) 2 女 中山タチ子 3 白 横井 静枝 4 相 桃井 タイ 5 磐 齊藤 幸子 △三段跳 1 安 大川 ナカ 九米五五、五 2 福 阿部 淑子 3 相 鈴木 美代 4 磐 赤塚 チョ 5 會 秋山 幸子 △走巾跳 1 相 寺島 ハマ 四米四六〇 2 會 吉田 イク 3 福 猪股マズ子 4 師 渡邊 ユキ 5 磐 田村 タキ △走高跳 1 會 酒井キシイ 一米三七(大會新記録) 2 相 志賀 綾子 3 福 紺野 イエ 4 磐 山松子 5 師 橋本 美代 △籠球投 1 安 宮下美代子 二五米五四(大會新記録) 2 福 龍造寺美枝 3 淑 森合マツエ 4 白 平瀬ミヨシ △總得點 (一三七)福女(二三二)相女(三二二)安女(四二二)磐女(五一五)會女(六一三)女師(七七)白女同喜女(八五)淑女

庭球は 磐女勝つ

庭球は 磐女勝つ

一方庭球大會は各校のA B選手がABCの三コートに於てリーグ戦に依り開始され熱球亂れ飛んだが結局女師及び磐女が十勝四敗の好成績で榮冠を獲ち得午後二時半夫々賞状を授與され萬歳三唱盛會裡に大會の幕が閉じられたが連戦連勝の榮譽を擔つたのは磐女のB組熊安子、渡邊コトのチームのみであつた因に戦績は左の如くである

Table with 2 columns: Team and Score. Rows include 會津3-2磐城, 同馬3-2福津, 淑徳1-3福島, etc.

暑中御伺 石城銀行組合 株式 福島モ一タ商會 平出張所 長佐藤勝美

小林検事が

平に別れを惜む

後任検事は江戸ッ子氣質

平区裁判所上席検事小林傳松氏は米澤區裁判所へ、同判事竹内正一氏は若松區裁判所へ夫々榮轉近日出發赴任する事になつたが後任検事は米澤區裁判所検事の清田一郎氏で同氏は東京市淺草區永住町生れ當年四十八才の統粹な江戸ッ子、明治四十二年東京帝大を出身後岡山を振り出しに松本、新潟、脇町、徳島、京都、新津、伊丹等各地を歴任昨年十二月米澤へ轉任し司法畑には珍しい程朗かな人である、尙小林検事は左の如く語る

飛び降りた刹那

車輪に巻れ即死

石城郡山田村字富津農末吉次男大平要藏(五)は去る廿九日午前九時半頃植田町字番町地内で茨城縣大津町永山自動車方運轉手青木目正一のトラックより飛び降りた際後部車輪に巻き込まれて即死した

参加申込

一三三組

教員庭球の

盛會豫想さる

既報來る八月三十日午前八時より警中コートに於て行れる濱二郡教員庭球大會の本日締切り迄の申込みチムは左の如く昨年優勝した好間の鈴木愛三、中山情組を初め二十三チムにて當日の盛會を豫想される

(好間)鈴木一 中山 松本
遠藤 渡邊一本田 永
久保一伊藤 加藤一室井
(下三坂)川口一服部(江名)遠藤一赤津 國井一

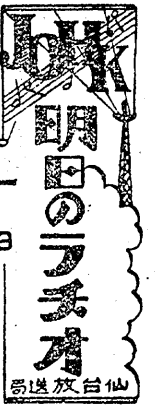
判檢事送別會

平町青沼町長其他は米澤へ榮轉の檢事小休傳松氏及び

平第一山岳部

富士登山出發

平第一小學校職員山岳部一同は明日午前零時五十四分にて富士登山に出發するが吉田口より八合目に一泊、頂上にて御來光を拜し御殿場口に降り小田原へ出て箱根に一泊、三日歸平する豫定である



今晚も明日も南西の風曇一時晴驟雨 氣味

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話し釣りの楽しみ千原勉
後六、二五 産業ニュース
後七、三〇 講演「地方ラヂオ体操の會開會」文部

明日の部

後九、三〇 時報
氣象通報 番組豫告

前九、一〇 料理献立
前一〇、三〇 家庭講座
「九月月見茶の湯」栗山善四郎
後〇、〇五 管絃樂行進曲
「マルセイユ」他二曲
大阪ラヂオケストラ
後二、〇〇 夏期講習「長唄のお稽古」一杵家彌七

後六、〇〇 子供の時間
唱歌 青森縣女子師範學校附屬小學校兒童
後七、三〇 運動講座「都市對抗野球出場チム」の横頭 橋戸頑鐵
後八、〇〇 俚謡「相馬流れ山」外 山下眞潮其他
後八、二〇 俚謡「秋田おばこ」田口さだ外大勢
後八、三〇 俚謡
後八、四五 連續ラヂオドラマ「人形の家」友田恭助 外大勢

映画を見ての歸り

鐵道往生を遂ぐ

入山海邊清遊 石城郡湯本町入山炭礦彼業員二百餘名は昨日小名濱海岸に於いて一日の清遊を試みた

碓氷吉 渡邊貞吉 池田千松 仲村繕喜 降矢由春 鈴木次男 本明惣助 關根榮治

平町會開く 平町役場では來る四日頃町會を開き高利借替及び警炭高壓線の移轉其の他を附議する筈

高久青訓耐熱 石城郡高久村青年訓練所では明日午前六時より新舞子海岸に耐熱行軍し教練を行ふと

平町を中心

古物商が結束

昨日百餘名參集し

新組合を組織

平町を中心とし内郷、好間兩村の古物業者は今回の檢舉に深く鑑みる處あり今後取締當局と密接な連絡を構じて犯罪を未然に防止せんと一致結束平古物商組合を組織し昨日午後一時より尼子亭に百餘名の同業者參集發會式を擧げた、先づ田平藏氏が座長役で會則を

整定し左記役員を決定、平署菊地警部補の懇篤な訓示及び川崎本社長の祝辭あり武藤組合長挨拶を述べて時節柄質素な懇親宴に移つたが今後は同組合を中心として業界刷新に精進する由

時計商慰安會

平町豫習

簡閱點呼

時計商組合では來る八月三日臨時休業をなし午前八時より四倉海岸に於て店員の慰安會を催し餘興として陸上競技及び寶探し等を催すと

臨海參加兒童 既報明日より四倉海岸に於て開催される平第一小學校の臨

平町八年度簡閱點呼は來る八月十三日午前七時より第一小學校で執行されるので在郷軍人分會では例年の通り八月五日一第校で點呼豫習を行ふ事になつたが彼來此の豫習は出席者が少なく

平職業紹介所報告

回人を求める方

- △漁業雜夫 二十五迄 月七八圓外面談(四倉町某)
- △農夫 三十前後 委細面談(飯野村某)
- △女中 五十迄 尋卒 月十圓位(四倉町某)
- △子守 十三以下 委細面談(湯本町某)

回職を求める方

- △土木現場監督 三十七才 高卒 給料面談(平町某)
- △雜夫 二十二才 高卒 給料面談(平町某)
- △女中 五十迄 高一修 給料面談(平町某)



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第三回 血に飢ゆる村正

可愛さの勘當

先には白紙が避けて流れる正宗の剣の威徳に驚いた一同、今度はまた濡紙が双形に觸るとスーッと二ツになつたその村正の剣の切味に、あつと思はず驚嘆の聲を揚げました。村正は一同に褒められ得得としてゐるが、師の正宗はホッと溜息を洩らした『恐るべし』

正『コレ、村正、お前には少し話がある、離座敷へ行つて待つて居なさい』
村『長まりました』

正宗は弟子達の寝てゐる處を見廻ると、何れも晝の疲れで快い心持さうに眼つてゐる。そこで離室へ来て正『村正、待達であつたらう』
村『どう仕りまして、お師匠様何御用でございます』
正『イヤお前に少し折入つて話したい事がある』
村『ハッ』
正宗は村正と膝を突合せのやうに座つて、ジツと對手の顔を見てゐたが、老の



門弟一同師の正宗に挨拶をして、各々枕につく事になつたが村正も師匠の處へ挨拶に行く

村正の了簡では定めし師匠が褒美でも呉れるのだらうと、ニコ／＼しながら云はれた通り離れ座敷へ行く

目からハラ／＼と涙を流した。村正は怪訝な顔をして村『お師匠様、如何なさいました』

正『村正、お前は幼少の時より手許へ置き、殊に喜左衛門殿夫婦が桑名へ立戻られる時、お前の生涯の事を呉々もお頼みになつて行かれた故、我子同様に思つて育て、今日天晴の技倆に相成つたのは喜ばしいが、豫々申す通り性来短氣にして鍛へし刀にも殺氣を含んでゐる。今更申すまでもないが、剣は武士の魂にして、人を斬るのが本来の目的ではない身を爲めに帯するものぢや、夫ゆえ刀を鍛へる時は、心を穩かに持て少しも短氣疎暴の振舞などをしてはならん、之まで再三意見をしたがどうも其方の心持が直らん、今日相模川に於て劍の威徳を試みた際、其方の刀ばかりは濡紙を見事に斬つた、之れを褒める者は未だ修業が足りんだ、劍は斬れさへすればよいと思ふのは間違ひ、畢竟お前は能く切れる／＼と念ずて鍛つからさういふ殺氣を含んだ劍が出来上る、そこで今夜お前を之へ招いたのは外でもないが、今日限りお前を勘當する』
村正は事の意外に吃驚して

正『夫はまたお師匠様お情ない、成程私の心掛が悪うございましたが、之から一生懸命改めます、どうか御勘當だけは御勘辨を願ひます』
と疊に平伏して頼むのを正宗は靜かに首を振つて正『イヤ／＼なりません、勘當されるお前より勘當する私の方がどれ位辛いか知れん、コレ村正、能く開けよ、憎くて勘當する譯ではない、可愛ければこそ勘當するのぢや、一旦決心を致した此の正宗、今は誰が何と申さうも許しはせん、然し正宗の勘當を許して貰ひたいと思つたなら、今から三年の間諸國を廻り、神社佛閣に詣で又は深山幽谷に入つてなり修業なし、短氣疎暴の心が直つたら一振の刀を鍛つて持つて參じなさい、其の劍を正宗一見なし眞に殺氣が抜けてをれば誰人の詫も要らぬ正宗速座に勘當を許して遣はず、就ては之なる金子百兩はお前の親の喜左衛門殿が伴に就

御愛乗下さい
シボレーに！
そは先驅者なり

夏期中自動車料金値下
夏期中沼ノ内、薄磯、豊間、江名方面行乗客の御便宜を計り左の通り料金値下げ致します。
片濱料金
沼ノ内 二十五銭
薄磯 二十五銭
豊間 三十銭
江名 四十銭
期間七月二十五日より八月三十一日迄
片濱乗合營業者

外務社員採用
初任固定給 月三十圓
二十五才以上男女を問はず
履歷書携帶左記へ面談。毎日午後
平町田町一七
レストランサロン方
仁壽生命平駐在 **吉田仁三郎**
電話三五二番

提灯
愈々舊盆も近づきました御新佛の戒名入提灯を御注文下さい
角形
經六、〇センチメートル 一對房付十五圓ヨリ
五、三同 同 九圓五十銭ヨリ
四、五同 同 六圓八十銭ヨリ
四、二同 同 五圓五十銭ヨリ
三、七同 同 四圓八十銭ヨリ
三、四同 同 三圓二十銭ヨリ
瓜形
經四、六同 同 三圓五十銭ヨリ
四、二同 同 二圓五十銭ヨリ
三、六同 同 二圓ヨリ
尙御好みにより値も品も色々に調製致します。
御話下されば早速見本持參御伺致します。
平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番